

## 発行によせて

予測不可能なこの時代には変化に耐えうる教育改革が求められ、その具体的な教育施策が進行している。学校教育では、2020年度からスタートしているGIGAスクール構想、2021年1月に文部科学省中央教育審議会が答申された「令和の日本型教育」の構築を目指して、小・中学校に続き、2022年度から高等学校の新学習指導要領がスタートし、全ての学校種で新学習指導要領に沿った学びが行われるなど、教育改革は待ったなしの状況である。学校現場も教育改革動向に敏感に反応しており、教育実習生を訪問すると、確かにこれまでの学びとは一味違う教育方法、学習活動が推進されていることに気付かされる。とりわけ1人1台端末の活用が進められ、様々な工夫が学校現場で展開されている。大学教育の改革については2019年度には教職課程を有する全ての大学に再課程認定が求められ、現在、各大学はそれに基づく教員養成が進行している。また、2022年度以降には全ての教職課程を設置している大学には自己点検・評価が義務化され、各大学での教育課程を検証、改善することが求められている。これらの教育施策、教育改革に対策や対応に追われるだけではなく、大学では今こそ教育の本質を見据え、教育とは何か、学校とは何か、といった根源的な問いに向き合う必要があり、積極的な議論を巻き起こすときであると確信する。

東洋大学は、哲学を基盤とした大学である。東洋大学の教職課程は、根底の揺るがぬ土台となる教育哲学の獲得を目指すとともに、生涯学び続ける教師像の実現を目指すことを目的とし続ける。その自負のもと、時代の動向に決して揺るがない哲学を根底に据えたじっくりと深い議論とともに、目まぐるしく変化する国際動向や社会構造、情報通信技術の革新などにも目を配り、今を生きる、これからの支え得る子どもたちに届く本質的な教育を構想、実行、実現し続けるための深い議論が期待される。

さて、東洋大学教職センター研究紀要は、東洋大学教職課程のいわば顔として、東洋大学教職課程関係者が東洋大学教職課程における取組、組織や個人で培っている学問研究、国内外の教育研究や政策などの動向を定期的に示す刊行物である。本学が目指す「東洋大学教職課程の理念」や「東洋大学教職課程の目標」、さらには、実効性のある具体的な取組につながる「東洋大学教職課程の計画」（それぞれ、以下に掲載）を見据え、東洋大学教職課程の独自性と発展性を示すものである。

東洋大学教職センター研究紀要が東洋大学教職課程の文化の礎となることを願い、多面的な視点から大いに論じていただくことを期待している。また、東洋大学教職センター研究紀要が、東洋大学教職課程、東洋大学教職センターの発展、さらには東洋大学の一層の発展と充実に寄与し得るものになることを願ってやまない。

東洋大学 教職センター長 後藤 顕 一

## [東洋大学教職課程の理念]

東洋大学、井上円了の哲学そのものである。創始者井上円了は、西洋に倣った近代化が進む時代において東洋の国日本に在る人間がいかに自己を確立していくかを模索する過程で、「洋の東西を問わず、真理は哲学にあり」という確信を持ち、「諸学の基礎は哲学にあり」という精神を掲げ、「万学を統括する学問」、「万物の原理を探り、その原則を定める学問」としての「哲学」を学ぶことを大学の目標とした。この哲学とは「事実と実証に基づく哲学」であり、「ものの見方、考え方の基礎」を身に付け、他に応用する能力を身に付けることを目的として、実社会において自らの道を拓くこと、さらに自身の学びを他者のために生かして社会に貢献することが必要であるとした。これらの考え方を基盤とする本学の建学の精神は「諸学の基礎は哲学にあり」、「独立自活」、「知徳兼全」であるが、これは教職においても基盤となる考え方である。また、本学が大切にしている在り方として、「東洋大学の心」がある。これは「他者のために自己を磨く」、「活動の中で奮闘する」ことであるが、「自分を磨くのは、人々のためにはたらくことができるようになるためであり、そのことを自覚して学業に励む」、「現実社会における活動の中にどこまでも前進してやまない」とあり、教職で身に付けなければならない実践力を裏打ちするものである。このような背景を持つ本学の「教育理念」は、「自分の哲学を持つ」、「本質に迫って深く考える」、「主体的に社会の課題に取り組む」である。「多様な価値観を学習し理解するとともに、自己の哲学（人生観・世界観）を持つ人間を育成する」。また、「先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方で、論理的・体系的に深く考える人間を育成する」。さらに「社会の課題に自主的・主体的に取り組む、よき人間関係を築いていける人間を育成する」という教えであり、教職を志す者が常に持ち続けるべき目標である。

## [東洋大学教職課程の目標]

東洋大学の教員養成は「東洋大学の建学の精神」や「東洋大学の心」に基づき、「東洋大学の教育理念」(「自分の哲学を持つ」、「本質に迫って深く考える」、「主体的に社会の課題に取り組む」)に則り、世界の動向、国の教員養成の方向性を踏まえ、教員としての礎を築き、哲学し続ける教師像、実践し続ける教師像、研究し続ける教師像を確立することを目的とする。すなわち、東洋大学の教員養成は諸学の基礎としての哲学を掲げて不断に前進し、自己の学びを社会に生かして貢献していく教員を育てることである。

そのために具体的な目標を以下のように設定する。

- ① 本学が定めるSDGs 行動憲章に基づいた行動がとれる教員の養成を目指す。
- ② ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーに基づき、それぞれの学部、学科で設定した「教員養成の目標」に沿った専門性を有する教員の養成を目指す。
- ③ 我が国の教員養成に係る方向性や動向を踏まえながら、教員養成課程の更なる充実と高度化を目指す。
- ④ 東洋大学教職課程の取組や、教員養成に携わる教職員の研究の成果を社会に向けて発信する。また、そうした活動を支援する。
- ⑤ 実践力をさらに高められるよう教育実習のより一層の充実を目指す。
- ⑥ 学内サポート体制を強化し、教員養成に係る学生一人一人の進路希望の支援を行う。
- ⑦ 他機関との連携、地域との連携、卒業生の協力などにより、教員養成のより一層の充実を目指す。

## [ 東洋大学教職課程の計画 ]

本学の教員養成の目標を達成するための具体的な計画は以下の通りである。

- ① 本学が定めるSDGs憲章に基づく教員養成を展開するための教育活動を計画する。
- ② 上記の「教員養成の目標」と各学部・学科で行われる教員養成プログラムとの関係を明確にする。教職課程と各学科のカリキュラム・ポリシーを一連のものとして捉え、学科の教育方針と連動した教員養成を可能とする。
- ③ 教職課程コア・カリキュラムを規準に授業のシラバスを検討し、授業の質保証を図る。教職科目担当教員が協働して教育内容等を検討し情報交換をする機会を通じて、授業の質の向上につなげる。
- ④ 教員養成に関する成果を発信する定期刊行物（『東洋大学教職センター紀要』）を発行する。理論と実践をつなぎ、新しいトピックに対応した研修活動に取り組むことで、教員養成に携わる教職員の研究活動の支援・充実を図る。
- ⑤ 教育実習経験を後輩に伝える取組を行うなど、教育実習をより一層充実した機会にするよう工夫する。
- ⑥ 教職課程の履修履歴である「教職パスポート」を学生に発行し、1年次から卒業まで、ポートフォリオを作成し学修の充実を図る。随時教員が点検を行い、学生の資質や意欲を確認し、適宜個別面談などによる指導を行う。また、全キャンパスに教職経験豊富な教職支援アドバイザーを複数名配置した教職支援室を設置し、学生に対して総合的な支援を行う。
- ⑦ 自治体との協定締結を進める。また、教職関連の講演会やセミナーを実施する。卒業生との連携を深め、情報共有に努める。白山教育会等との協力のもとに、教員採用試験面接対策講座などを行う。現職卒業生とのOB・OG会を開催し、連携に努める。